



院長
コラム

病院長から患者さんご家族へ

(このコーナーでは当院の特色や方針について、病院長がわかりやすく説明します。)

「市民病院は地域の医療を支えます」

病院長 渡辺 古志郎



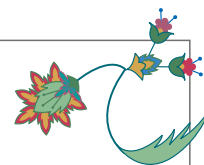
当院は、地域医療支援病院としてがん、救急、感染症、小児・母子医療を中心に地域医療の充実に努めています。

そのために地域の診療所や病院と緊密に連携しており、原則、初診の方は地域の医療機関からの紹介制とし、症状が落ち着いた段階で、その後は地域の医療機関で診療していただくことにしています。この連携により、少しでも多くの方に当院を利用していただけていると思っております。勿論、症例検討会などにより、専門的な知識・技術を地域の先生方とともに高め、共有していることは言うまでもありません。

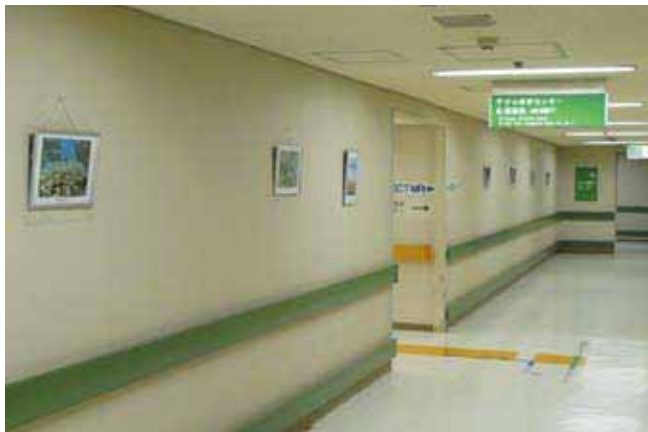
これからも高度急性期病院として、診療機能を充実させていきますので、患者さんやご家族の皆さんにはご協力、ご理解をお願いいたします。

サービス 向上の取組み

「市民病院写真展」



より良いサービスを提供するため、各部門の職員で構成する「サービス向上委員会」を設けています。



【西病棟地下2階とがん検診センターを結ぶ通路】

サービス向上委員会では、病院に勤務するスタッフから、心温まる写真作品を募集し、西病棟地下2階とがん検診センターを結ぶ通路に展示していますので、ぜひご覧ください。今後も患者さんへのサービス向上のため、様々な取組を実施していきます。



【写真展出典作品の一例】

診療科・部門紹介

形成外科

形成外科副医長 佐久間 恒

○当科の理念

形成外科とは、腫瘍・ケガ・手術などにより生じた形態・機能の異常や生まれつきの変形などを、可能な限り正常な状態に修復（再建）することで、QOL（生活の質）を改善して早期の社会復帰を助ける外科の一分野です。

「形態の異常」は、他人にとっては取るに足らないようなことでも、ご本人にとっては大変な苦痛となっていることが多くあります。治療を行うことで、患者さんの心理的苦痛が和らぐことに少しでも助力することができれば幸いと考えています。

形成外科にはひとつの疾患に対しても多くの治療の選択肢があるため、患者さんとよく相談して、ひとりひとりにあった治療法を考え、外見および機能を極力もとの状態に回復させることを目指して治療にあたっています。

○治療対象

1. 外傷（けが）の治療

擦り傷、切り傷、やけど、顔の骨折、創傷治療の専門家として、出来るだけ痛くなく、早く、きれいに治します。特に顔面などの見た目に関わる部分のケガは、形成外科で治療を受けることをお勧めします。

2. 体表面の異常（変形）の治療

○肥厚性瘢痕（きずあと）、瘢痕拘縮（ひきつれ）

ケガ、手術によるきずあと、変形、やけどなどによるケロイドや皮膚のひきつれの治療を行っています。ほぼすべて健康保険が使えます。

○眼瞼下垂

まぶたが開きにくい、まぶたの開き具合に左右差がある、などの症状に対する手術を行っています。

「医療の安全を みなさまとともに」

「医療情報コーナー」が

オープンしました



昨年8月、「医療情報コーナー」が外来正面玄関付近にオープンしました。一般向け医学書（約200冊）の他、定期購読用健康雑誌やパンフレット等をご覧いただけます。ご自分やご家族の病気、これから受ける治療などについて理解を深めていただき、医師などからの説明を受ける際の参考にさせていただきたいと思っております。

開設から間もないため蔵書数は少ないですが、利用



者の皆様のご意見を参考に、今後、充実を図っていく予定です。

*利用日・時間：月曜日から金曜日

（祝日、年末年始を除く）7:30～17:00

お願い

図書の閲覧は医療情報コーナーでお願いします。

3. 難治性皮膚潰瘍（かいよう）

褥そう（床ずれ）、糖尿病性壊疽（えそ）、放射線潰瘍（かいよう）などです。軟膏、創傷被覆剤を用いた治療を基本として、手術治療も行います。

4. 先天性外表変形

耳の変形（折れ耳、立ち耳、埋没耳など）、手足の変形（合指症、多指症など）、臍ヘルニア（でべそ）、漏斗胸など。

○当院で行っている特殊治療

1. リンパ浮腫（手足のむくみ）に対する
リンパ管細静脈吻合術（顕微鏡を用いた超微小血管吻合手術）
2. 陳旧性（ちんきゅうせい）顔面神経麻痺に対する
神経血管柄付き筋肉移植術（笑いの再建）
3. 腹壁癒痕（ふくへきはんこん）ヘルニアに対する
コンポーネント・セパレーション法（より生理的な修復法）
4. 乳がん術後の乳房欠損に対する
自家組織を用いた乳房再建術



○担当医師からのメッセージ

患者さんが納得して受診していただけるよう、病気の状態、治療の方法など、専門的で難しいことをできるだけわかりやすく説明するよう心がけています。

治療方法など詳しい説明は市民病院のホームページでご紹介していますので、ご覧ください。

<http://www.city.yokohama.jp/me/byouin/s-byouin/14keisei.html>



みなさまからの声

患者さんやご家族から寄せられたご意見と
当院の対応・考え方などをご紹介します。

Q1 病室の窓ガラスが汚れていて、外が見えにくいのですが・・・。

A1 病棟の窓には、ガラスが破損した場合に備えてガラス飛散防止フィルムを張っているため、外が見えにくくなっています。ご不便をおかけし申し訳ありません。なお、窓の清掃は定期的を実施しています。

Q2 診察を待っているときに寒い場合は、毛布などを貸してもらえますか。

A2 ご要望に応じてお貸ししていますので、お気軽に外来窓口にお申し出ください。

Q3 お世話になった先生やスタッフに贈り物をしたいのですが・・・。
医療の向上のための研究資金を寄附したいのですが・・・。

A3 当院は公立病院であることから、職員へのご贈答品等についてはご遠慮申し上げております。お持ちいただいても、お気持ちだけを頂戴し品物はお返しさせていただきますので、ご了承ください。

なお、当院への寄附につきましては、受け付けております。詳しくは総務課管理係（電話 045-331-1961（代）内線 4604）へお問い合わせください。ただし、特定の医師や診療科に用途を限定した寄附については、お受けできませんのでご了承ください。

横浜市立市民病院

〒 240-8555 横浜市保土ヶ谷区岡沢町 56 番地
(代表) 045-331-1961

【診療受付】

月曜日から金曜日（土曜日、日曜日、祝日及び年末年始は休診）

○新患の方：午前 8:30～11:00（診療開始 8:45）

○再診の方：午前 7:30～11:00（診療開始 8:45）

市民病院は原則、初診紹介制となっております。他の医療機関からの紹介状を、お持ちください。

【救急時の受入について】

○新患の方：かかりつけ医からのご紹介、救急車での搬送を基本としています。

○再診、通院中の方：必ずお電話にて連絡の上ご来院ください。

広報紙「こころ」について

「真心をこめ、思いやりのある看護を提供します」という看護理念をこめて、看護部マスコットキャラクター「こころ」をパンフレット等に使っています。

このキャラクターにちなみ、新たに発行する広報紙が、患者さんやご家族と病院の「心」をつなぐ一助となるよう、「こころ」という表題にしました。

